

## 1 対象機関の概要

機関名 帯広畜産大学  
 所在地 帯広市稲田町西2線11番地  
 学部構成 畜産学部  
 学科構成 獣医学科，畜産管理学科，畜産環境科学科，  
 生物資源科学科  
 別科（草地畜産専修）

### 研究科構成

帯広畜産大学大学院畜産学研究科（修士課程）

畜産管理学専攻，畜産環境科学専攻，  
 生物資源科学専攻

岐阜大学大学院連合獣医学研究科（博士課程）

岩手大学大学院連合農学研究科（博士課程）

学部附属施設 附属農場，附属家畜病院

その他の施設 附属図書館，保健管理センター，  
 地域共同研究センター，原虫病研究センター（全国  
 共同利用施設）

学生収容定員（平成12年度）

畜産学部1,138人 [ 獣医学科240，畜産管理学科296，  
 畜産環境科学科385，生物資源科学科207，  
 学科共通3年次編入10（除く獣医学科）]

別科60人

教員数143人

（学長1，教授56，助教授49，講師8，助手29）

帯広畜産大学は寒冷地の畑作・畜産の地理的条件に恵まれた十勝平野の中心に位置し，先進的な農業地域の中で，優れた教育研究の実績を上げ，人材を輩出してきた。卒業生の多くが，北海道はもとより，日本あるいは世界の農業の発展に貢献している。

帯広畜産大学は，昭和24年5月国立学校設置法により国立大学唯一の畜産系単科大学として設立，整備されたが，その起源は，昭和16年4月に創立された帯広高等獣医学校である。

設立の目的は，民主的文化的社会に教養豊かな人材を育成すると共に，農業に関する科学技術を教授研究し，農業合理化の発展に努め，人類の福祉と文化の進展に寄与し，産業経済の興隆に貢献するためである（昭和26年度本学概要）。

帯広畜産大学設立時は，獣医学科・酪農学科（昭和53年4月家畜生産科学科と改称）の2学科で構成されたが，その後何回かの整備再編を経て，平成2年4月，獣医学科，畜産管理学科，畜産環境科学科および生物資源化学科（平成9年4月生物資源科学科と改称）の4学科に再編された。

## 2 教養教育に関する考え方

大学の教養教育の目的は，学生が専門的学芸を深め，学問の裾野を広げ，自主的・総合的に考え，豊かな人間性を養うことにある。

そのために，様々な角度から物事をみることのできる能力や，的確に判断できる能力，自分の知識や人生を社会との関係で位置づけることのできる能力，課題を探求する能力を付与することが必要である。

本学教養教育の目的は，国際化，情報化，多元化する現代社会に適切に対応できる創造力に富む実務型の研究者，技術者を輩出するために編成されてきた。

これを実現するために，専門教育と教養教育の融合を目指した学部一貫教育を行っている。

学部一貫教育における教養教育は，専門教育を補完的，有機的，多角的に支え，専門の学識の原理やその関連分野の総合的な理解，判断力を養う教育である。

また，急速に進展する科学技術や国際化・情報化する社会に適応し，貢献する知識や能力を授ける教育である。

教養教育を4年間（獣医学科では6年間）の教育課程に配し，1，2年次では基礎的教養教育や大学教育への動機付けのための教育を行い，3年次以降の教養教育は専門教育と関連した教養教育を行う。

教養教育と専門教育との量的バランスは各学科の教育目的に従って決定する。本学における教養教育は以下の内容を含む。

良き市民としての文化と幅広い教養を身に付け，自己責任を伴う人間的成熟と倫理観の形成を促す教育。

生涯を精神的・肉体的に健康に過ごすための健康・スポーツに関する教育（健康・スポーツに関しては課外活動の指導や施設を充実する。）。

農学・獣医学・畜産学などの学芸を学ぶための動機づけと自然・人文・社会科学の基礎学力と知識を教授し，また，多様な履修歴に対応した教育。

国際化・情報化・多元化する現代社会の諸問題に関心を払い，その仕組みや機能を理解し，また，専門知識を生かすための多様な思考・発想の形成に寄与し，価値判断を的確に行う能力を養成する教育。

日本及び他の多様な文化圏を深く理解し，自らの考えを自国語及び外国語で話し，記述し，討論できる能力の養成と国際舞台で活躍できる能力育成の教育（語学教育に関しては，実用性を重視し，会話や作文など多彩な内容を含む。）。

### 3 教養教育の目的及び目標

#### 1. 本学の発展と教養教育の目的

##### (1) 大学設立からの教養教育の理念

畑作・畜産を主体とした我が国有数の食料基地である北海道十勝地域に位置する本学は、昭和24年5月国立学校設置法により、獣医学科と酪農学科の2学科からなる新制大学として発足したが、その前身は昭和16年4月に創立された「帯広高等獣医学校」にある。

設立当時からの教育理念及び使命は「民主的文化的社会に教養豊かな人材を育成するとともに、農業に関する科学技術を教授研究し、農業合理化の発展に努め、人類の福祉と文化の進歩に寄与し、産業経済の興隆に貢献する」である（昭和26年度本学概要）。

すなわち、本学の教育が、単に農業技術者としての専門家を育成するだけではなく、教養豊かな人間性の育成と社会への貢献を目的とすることを宣言したものであり、今日の本学教養教育の理念のルーツがここにある。

その後の本学の組織再編は、戦後の日本の農業・畜産が歩んできた足跡を反映するものであり、それに対応する形で学科が増設整備された。平成2年度に社会の急速な国際化、情報化、高度技術化に柔軟に対応し、学際的・複合領域での教育を可能にするための学科整備を図り、現在の学科構成（獣医学科、畜産管理学科、畜産環境科学科、生物資源科学科）の学部再編された。

平成3年度の大学設置基準（以下「設置基準」という。）の大綱化を受け、平成6年度カリキュラム再編（「新カリキュラム」）と教養課程の改革が行われた。また、平成9年度、教養課程の改編に伴い、「新カリキュラム」の一部見直しが行われ、「新々カリキュラム」として新たなカリキュラムが設定された。

##### (2) 大綱化以前の本学の教養教育

平成3年度の設置基準の大綱化以前は、教養課程の授業科目は一般教育科目、外国語科目、保健体育科目および基礎教育科目と学問領域ごとに区分されていた。

教養科目は、教養課程の教員を中心に行われ、専門分野の教員による専門教育と区別された教育が行われた。

一般教育科目は設置基準に規定されたものであり、本学独自の編成上の理念、教育目標や内容などの考慮は求められなかった。各科目については科目担当者が独自にその内容や教授法を採用していた。

その間、教養課程の教員にあっては昭和54年4月頃から「教養セミナー」が自主的に開催され他学科の教員との交流が盛んになされたが、教養教育体制の見直

しや学部学生を含めた一般教養セミナーまでは発展しなかった。

##### (3) 教養教育の目的

現在の帯広畜産大学の教育理念は、畜産学、獣医学、農学及び関連諸科学の専門知識と人文・社会科学との総合的、学際的な発展を目指し、科学技術と自然と文化の調和を基調に、総合的理解力、判断力を身に付け、国際化・情報化・多元化する現代社会に対応できる技術と知識を備え、創造力に富む学生を養成することにある。

この理念のなかで、教養教育の目的は、

本学の教育理念を効率的に効果的に達成できる基礎学力の教授

農畜産の幅広い基礎的知識の教授

卒業後の進路の多様性を考慮し、職業人としての幅広い教養・能力や意識の涵養

となっている。

#### 2. 本学の教育目標

##### (1) 「新カリキュラム」(平成6年度)の目標

平成6年度、設置基準の大綱化をうけて、従来的一般教育及び専門教育の区分を廃止し、本学の教育目標に沿った形で「新カリキュラム」を策定・実施した。

「新カリキュラム」では、それまで、制度的にとらえられていた一般教養教育を改め、前述した本学の教育理念や教養教育の目的に沿って、学部教育の一貫性を配慮した教養教育のカリキュラムの編成を行った。

教養教育の教育課程は以下のような基本的な目標に従って実施した。

学部一貫教育を図ったカリキュラム編成

学部一貫教育を図り、本学全教員が教養教育に関わるように連携を強める。

カリキュラム再編にあたっては、一般教育と専門教育を担う教員集団による固定的硬直的な組織面での弊害を解消し、制度的な枠をはずした。従って、既存の学科・課程、講座にとらわれず、本学の学部教育の目標達成を目的にカリキュラムを編成した。

科目群の検討 学際的・総合的な教育体制

学科・課程、講座を横断して教育を行うため、新たな科目群を設定した。科目群を4大科目群（導入科目、学部基礎科目、学科コア科目、学科周辺科目）に分類し、専門教育基礎科目を含む一般教育科目を、導入科目と学部基礎科目に分けた。教養教育科目は主として導入科目、学部基礎科目に配置した。

導入科目は大学の教育課程のなかでは、早期（1, 2年次）に行う科目群であり、専門科目と一般教育科目で構成される。専門科目は、主として専門教育を担う教員によって教授され、本学教育研究の意義の認識、学習の動機付けを行う。一般教育科目は、自然、人

文・社会科学の基礎学力と知識を教授し、多様な履修歴を持った学生を本学の教育に連結させるための科目である。

学部基礎科目は専門科目である学科コア科目の基礎となる科目、バランスのとれた自律する人格を形成するのに必須な教養科目、国際化・多元化・情報化する現代社会にあって、適切に対応するための知識や技術能力を与えるための科目などを含む。学部基礎科目は専門的学芸を深めるための幅広い視野を育成し、情報化、国際化への対応、科学技術と自然と文化の調和を基調に、総合的・学際的な教育を目指し、その目的を達成するために、教養科目担当の教員と専門科目担当の教員が横断的に連携し、現代人として共有すべき幅広い知識を持たせる。

この科目群は教養教育全体のバランスを意図した構成になっている。学科の専門科目の基礎基盤となる「自然科学領域」、広い視野と総合的判断の技術を養う「人文・社会科学」領域、国際的視野を育成する「国際比較」領域、コミュニケーション能力、討論・発表の仕方、論文等の作成などを教育し、実用的語学能力を育成する「表現技法」領域、健康とスポーツの科学的知識を与える「保健体育」領域、ますます高度化する情報化の技術と知識を修得するための「情報処理」領域に区分される。

学科コア科目は学科固有の専門性の高い学識を与える科目であり、教養教育を加味した科目は少ない。

学科周辺科目は、学科の専門科目に深く関連する他学科のコア科目で学科横断的な履修を可能にする。

#### 科目の選択肢の拡大

それまでの、通年の開講科目を減らし、 Semester制が採用可能なように、開講期間を1週2時間15週にした。学生の科目の選択肢を拡大するとともに、学生に他学科開講科目の受講を促し、学科間の交流を促進するとともに、科目選択の主体性を養成する。外国語はnative speakerによる会話や作文など実用的な科目数を大幅に増やす。学生の科目履修あたっては、様々な形で履修指導を行う。

#### 学部教育を通じた教養教育

教養科目は、4年間（獣医学科は6年間）の教育課程全体に配し、導入科目や学部基礎科目で教養的要素の強い科目を1、2年次に、専門教育とより関連の強い教養科目を3年次以降に配置した。また、専門科目開講の早期化を行った。

#### (2)「新々カリキュラム」(平成9年度)の目標

平成6年度の教養課程組織の廃止と、共通講座「人間環境」の新設をとまなう大学の組織改革を行い、今日実施されている「新々カリキュラム」が設定された。

旧教養課程の自然科学系の教員は学科に配置し、人

文・社会科学、外国語、保健体育の教員は共通講座に所属した。共通講座教員による、環境社会システム分野や文化環境分野の科目が新設され、学科関連専門科目（「新カリキュラム」では学科周辺科目）に加えられ、教養教育的内容の科目が増設された。

「新々カリキュラム」は、学部一貫教育、総合的・学際的専門教育体制、専門教育の早期開講など基本的に「新カリキュラム」の目標に沿ったものである。

さらに、学生の専門志向と知的好奇心を育てるために、専門教育の早期化と教養教育の後期教育課程への配置を積極的に進めた。これが「新々カリキュラム」の目標である。

「新々カリキュラム」での教養教育の教育課程は以下のような基本的な方針に従って実施している。

教養科目を4大科目群、則ち、導入科目、学部基礎科目、学科理論応用科目（「新カリキュラム」では学科コア科目）及び学科関連専門科目の中にバランス良く配置し、教養教育は主として導入科目、学部基礎科目、学科関連専門科目に配置した。学生に他学科開講科目の受講を促し、自由に選択した科目を単位認定（自由選択科目）することにより、学科間の交流を促すとともに、科目選択の主体性を保障する。

学生の科目履修あたっては、様々な形で履修指導（シラバスの利用、チューター制度、学級担任）を行う。

#### 3. 教養教育の今後の課題

教養教育と専門教育の枠を除いた学部一貫教育、総合的・学際的な教育体制、学生の科目の選択肢の拡大は実現している。しかし、一方では、教育上さらに改善すべき点もある。

科目数が増え、科目間での内容の重複や、過不足があり、整理統合などの検討が必要である。

また、単位の取りやすい科目が選択的に履修されるなどの問題点があり、効果的な履修指導も必要である。

これらの解決には、大学全体の教育を戦略的に考える組織が必要である。以上の問題も含めて、今後の本学教養教育のあり方については、後述する将来構想の中で述べる。

## 4 教養教育に関する取組

### (1) 実施体制

#### 1. 教養教育の実施体制組織と組織の再編

平成3年7月大学設置基準の一部改正を受けて、本学では一般教育および専門教育等の区分を廃止する方向で「新カリキュラム」を作成し、教養課程、獣医学科、畜産管理学科、畜産環境科学科、生物資源化学科（現在：生物資源科学科）の1課程・4学科で、教養教育を平成8年度まで分担し実施してきた。しかし、平成9年度からの教養課程の改組（自然科学の教員を上記4学科へ分属し、人文・社会科学、外国語、保健体育の教員を共通講座に再編）に伴い「新々カリキュラム」を設定し、現在に至っている。新々カリキュラムでは、共通講座による環境社会システム分野と文化環境分野の科目を教養教育科目に加え、専門教育とより密接に関連づけた現行の教養教育を構築した。

#### 2. 運営組織と活動内容

教養課程の改組後、本学では学部教育の基本的事項を審議する全学的な検討委員会として「大学教育委員会」を設置した。一方、教育に関する具体的な問題の検討やカリキュラム案の検討と成案は、教務委員会で審議し、必要に応じてワーキンググループを設けて集中的に審議してきた。

具体的な活動として、大学教育委員会は平成6年度から実施してきた「新カリキュラム」について点検・評価した。「新カリキュラム」に伴い導入した各履修科目のセメスター制への努力、複数教員による授業の実施、学生の主体的学習意欲に応える多様な選択科目の導入について、3回にわたるアンケート（学生による授業評価に関するアンケート、教員に対して新カリキュラムを含む教育課程全体に関する改善意向調査、個々の授業に対する学生による評価）を行った。こうしたアンケートによる授業評価を参考に教養教育と専門教育の連携を強め学部一貫教育の徹底を図り、教養教育の整備充実を目的に「新々カリキュラム案」を作成し、平成9年度から実施した。

平成9年度以降においても、大学教育委員会は教養教育および各学科の教育機能の調整機関として機能し、教育内容の点検と評価を続けており、平成10年度には「学生による授業評価」と「教員による授業評価」を実施し、平成11年10月に「教育機能に関する自己点検・評価報告書」として公表した。

平成12年度までの大学教育委員会は、学長、図書館長、学生部長、各学科長、共通講座主任、別科主任、事務局長により構成されていたが、平成13年度の副学長制度の導入により、その構成員は、教務担当の副学長、図書館長、各学科長、共通講座主任、別科主任、

事務局長へと変更した。

#### 3. 実施組織の自己点検・評価

本学では大学教育委員会を中心に、教養教育の改善に向け数回にわたり学生および教員による授業評価を実施し、教育方法等の改善に努めている。

##### (1) 学生による授業評価

平成10年度に本学で行った授業評価によると教員の授業熱意や資料準備について60%以上の学生が高く評価している。一方、学生の理解度への配慮の乏しさが指摘されている。また、授業評価に関しては72%の学生が、現行の授業形態に満足していると答えているが、個性的・独創的な授業で人間の魅力のある話題豊富な教員像を学生側が希望していることが授業評価により明らかとなった。

##### (2) 教員による授業の自己評価

平成10年度に学生による授業評価と同時に教員による授業の自己評価も行った。その結果によると80%以上の教員が、教育と研究を同程度に位置づけ授業の準備等に時間を割き努力していることが理解できる。「新カリキュラム」から「新々カリキュラム」への移行後の教育の評価に関しては、3分の1以上の教員が改善されたと述べている。教員による授業評価が本学の教育改善に役立つと回答した教員が、半数以上と多く、恒常的な授業評価の実施が教育改善には必要であることが指摘されている。

##### (3) 外部評価

本学は平成11年10月に「帯広畜産大学の現状と課題」と「教育機能に関する自己点検・評価報告書」（帯広畜産大学自己評価委員会）を公表し、外部評価を受けた。また、平成12年度から運営諮問会議を年2回開催し、学外有識者から本学の教育研究機能に関して評価と助言を受けて組織運営体制の改革に努めている。

#### 4. 教育改善の諸施策

FD室の設置、FD活動については、既に本学教員が学外の研修を受けるなどしているところであるが、平成13年3月の教授会において、教育研究等機能開発室（FD室）の設置が決議され、平成13年度から本学所属教員の教育および研究機能、評価機能、社会貢献機能及び管理運営機能等の資質開発および改善について組織的に取り組むことになった。FD室は上記目的に向け活動を開始することとなるが、教養教育に関しては、多人数による授業科目が多いこともあり、教育内容の調整や分担教員の選任と各教員の教育資質開発などに重点を置く必要がある。

また、FD室は組織の改組に伴う新たな授業科目の導入において、企画、立案に関して中心的な役割を果たし、各教員個々に対しても指導と助言を行って円滑で効率的な教養教育の実現に向けた活動が期待されている。

## (2) 教育課程の編成及び履修状況

### 1. 教育課程編成の特色

教育課程の編成にあたっては、本学の教育理念を反映させ、その効果を上げるために、学生の学習の進捗を十分考慮し、多様で柔軟な授業科目群の編成を行っている。

また、前半教養教育・後半専門教育というこれまでの枠にとらわれず、学生の能力・適性・興味、授業科目群の体系性、有効性、科目の範囲、科目履修の順序を考慮した編成を行っている。このため、専門の内容を入学後の早い時期に学生に提示したり、逆に、一般教養の科目を大学在学の4年間（獣医学科は6年間）にわたって広く配置するカリキュラム編成を行っている。

学部一貫教育を効率的に行うため、本学では、全学の教員が一般教育と専門教育の連携に携わる体制を採っている。各教員がそれぞれの教育研究分野と教育経験の実績に応じて、所属する研究組織の枠を超え、最も適切な教養教育の授業を担当している。

専門的な科目において教養的内容を積極的に取り込んだり、科目を複数の教員の担当とすることによって専門の内容を複数の角度から学生に提示している。

また、旧教養課程の自然科学系教員の学科への分属を契機として、一般教養の科目に専門の教員が参加するなど、科目の中での一般教育と専門教育との融合も図っている。複数教員担当の科目では、科目責任者が決められ、授業の構成やシラバスの調整を行っている。

### 2. 授業科目区分

本学の教育課程は、導入科目、学部基礎科目、学科理論応用科目、学科関連専門科目の4つの科目群から構成される。これらの授業科目の教養教育に関わる区分：A) 一般教養教育科目、B) 一般教養教育と専門教育を併せ持つ科目、C) 専門教育科目について授業担当教員へのアンケートを行い、これに基づいてA、B、Cへの区分を行った。Aに区分される授業科目の総数は59科目、Bに区分される授業科目は55科目、Cに区分される授業科目は248科目である。

#### (1) 導入科目

カリキュラムの階層的編成の最初の段階に位置する科目群であり、高校教育から大学教育への接続過程における学問への動機づけ、その社会的意義の自覚、大学教育に対する自覚を促すことを目的としている。この科目群は、大学教育の基盤である一般教育科目（13科目）と学科の各専門分野の教育内容を1年次学生に提示するための科目（14科目）から構成される。教養教育に関わる区分としては、一般科目はAに、専門科目はBに区分される。

一般科目は人文・社会科学系科目と自然科学系科目

からなり、1学科で数学系2科目を必修としていることを除き、2ないし4科目の履修を義務づける選択制となっている。

専門科目は専門分野の各コースの紹介を行う科目（概論科目：9科目）と体験的な実習・演習を行う科目（実習科目：5科目）から構成され、各学科で必修を義務付けている。概論科目は、それぞれの専門に属する複数の教員が担当し、学生に様々な角度から専門への動機づけを与えることを意図している。実習科目は、附属農場での実習や乗馬実習であり、体験実習を通じて土地、作物、動物との触れ合い、動物福祉の教育に努めている。

#### (2) 学部基礎科目

学生の能力・適性・関心を考慮し、専門の基本的な知識と広い視野、柔軟な思考力、深い理解力、正しい判断力を養うことを目的とし、各学科の学科理論応用科目・学科関連専門科目との有機的関連に配慮した学科横断的な科目群である。学部基礎科目は、6つの科目群から構成される。

##### 自然科学科目（22科目）

学部一貫教育を柱とする本学の教育理念から、高度な科学技術に支えられた各学科専門教育への系統的繋がりを配慮して開設する農学・獣医学・畜産学の基礎科目群である。

##### 人文・社会科学科目（9科目）

自然・社会環境の認識および農業畜産の社会経済的意義の理解を深めることにより農学・獣医学・畜産学の専門学術成果を社会に還元させるための問題の認識・理解・解決に資する科目群である。

##### 国際比較科目（8科目）

国際化、国際交流・貢献の要請を踏まえ、農業・畜産を取り巻く世界の多様な文化・社会および自然生態系などに関して多面的に国際理解を深めることを目的とした科目群である。

##### 表現技法科目（27科目）

日本語の駆使能力および外国語の読む・書く・聞く・話す能力の向上を通して実用的な表現技法の修得を目的とする科目群である。外国語科目では、専門関係の記事・論説も教材に活用し、学生の興味と関心の喚起を促している。基礎学術セミナーおよび医科学情報演習（ともに必修科目）では、少人数教育のメリットを活かし、表現技法の能動的かつ総合的訓練を行っている。

##### 健康スポーツ科目（4科目）

社会人として必要な心身の健康管理およびスポーツの科学的理解と実践の教育を目的とする科目群である。体育実技（2科目）は必修である。

##### 情報処理科目（11科目）

農学・獣医学・畜産学に関係する情報の収集・処理能力の強化のための統計学的知識の応用とコンピュータ利用技術の修得を目的とした科目群である。

教養教育に関わる区分としては、自然科学、人文・社会、情報処理の科目群はA、B、Cの全てを含むが、国際比較、表現技法、健康・スポーツの科目群はAまたはBに区分される。

### (3) 学科理論応用科目

その学科の指向性、専門性の高い学科固有の専門的学識を授ける科目であり、各学科固有の基盤となる基礎的学識・理論、技術等の原理やその背景を多角的に教授し、専門知識、技術の理解を深めるために必要な科目である。教養教育に関わる区分としては、Cに区分される。

### (4) 学科関連専門科目

他領域分野の科目で多角的に学科理論応用科目群を支え、専門的思考法、独創性、創造性を育てることを目的とする科目である。この科目群は、狭い特定の専門分野に偏らずに周辺の専門分野への基礎的理解を身につけさせ、多様な志向・発想の形成に寄与し、価値判断を的確に行う能力を養う教養教育の役割を担っている。他学科の理論応用科目を採用する専門科目と、共通講座が開設する一般教育科目(13科目)から構成される。教養教育に関わる区分としては、一般教育科目はAまたはBに、専門教育科目はCに区分される。

### (5) 自由選択科目

以上の4大科目群毎に修得すべき単位数が指定されているが、それらの総計は卒業要件単位数よりも10単位少なく設定されている。この残り10単位は、学生が興味、関心、進路に合わせて原則として全開講科目の中から自由に選択履修できる。この制度は、学生が自らの積極性に基づいて幅広く深い教養を身につける習慣を養うためのものである。

### (6) 補習授業

一般教養教育科目の一部であるが、平成11年度から、入学生の教育履歴の多様化に対処し、高校教育と大学教育とのスムーズな接続を図るための措置として、英語、数学、物理学、化学、生物学の補習授業を行っている。

## 3. 教養教育の授業科目の履修状況

以下、一般教養に関する教育の授業科目(区分Aおよび区分B)の履修状況について述べる。

平成12年度に4年在学(獣医学科は6年在学)で卒業した学生について、各学科の平均修得単位数は、59.9から77.9単位にわたる。これを区分Aの授業科目でみると、28.5単位から40.1単位にわたる。また、平成12年度の履修でみると履修登録に対する単位修得の割合(単位取得者数/履修登録者数)(以下「単位取得

率」という。)は全学科の平均で70%以上である。以上のことから、本学の学生が一般教養に関する授業を適正に修得していることが伺える。

### (1) 導入科目(27科目、履修総数4,104名)

導入科目は1年次の時間割のみに配置されており、他の科目群との競合は比較的少なく、履修しやすくなっている。一般科目(13科目、履修総数2,509名)で、200人規模の授業となっているものが4科目あり、他も比較的履修率が高い。一方、専門科目(14科目、履修総数1,595名)の概論科目は、2年次以降の学生の専門コースへの分属と関わっているため、各学科で履修する率は高い。

### (2) 学部基礎科目(73科目、履修総数6,984名)

表現技法(27科目、履修総数3,983名)、健康・スポーツ(4科目、履修総数966名)で履修率の高い科目が多く見られる。自然科学(19科目、履修総数2,607名)では、専門に応じて科目への履修が分散しているが、Bに区分されるもので特に履修者の多い科目がある。人文・社会科学(7科目、履修総数1,368名)、国際比較(8科目、履修総数1,178名)、情報処理(8科目、履修総数487名)においてもまんべんなく履修がなされている。

### (3) 学科関連専門科目(一般教育系:14科目、履修総数1,100名)

学科関連専門科目では、Aに区分される「産業社会環境論」、Bに区分される「国語表現法」、「教育原理」が200名規模(平均単位取得率72.6%)の多人数の授業になっているが、他は数十人以下の授業となっている。

全ての科目群を合わせると、履修登録者数及び単位取得者数は、Aに区分されるものがそれぞれ161名、114名(単位取得率70.8%)、Bに区分されるものがそれぞれ109名、83名(単位取得率76.1%)である。

### (4) 補習授業

補習授業の受講者は、数人から十数人である。比較的少ない人数であるのは、補習授業が卒業要件単位として認められない為と考えられる。平成13年度はこの点を是正して、補習的授業を、大学入学前の履修歴と本学とを連結させるための正規の授業として卒業要件単位に組み入れた。

### (3) 教育方法

#### 1. 教養教育方法の基本方針

教養教育は、学生の能力、適性、関心に応じて勉学意欲を刺激し、自覚的にその探求心を鍛える知的活動の基盤であることから、本学では教養教育に関する科目を導入科目、学部基礎科目、学科関連専門科目に広く配置し、学生が在学する期間にわたって比較的自由に履修させている。このような学生の自由選択を保障することにより、専門教育とより密着させた形での教養教育を行う。

#### 2. 教養教育の授業形態

教養教育の授業の形態は、講義、演習、実験・実習・体育実技の3つに区分される。講義は2時間15週で2単位（一部1時間15週で1単位）、演習は2時間15週で1単位（一部1時間15週で1単位）、実験・実習・体育実技は、2時間15週で1単位（一部3時間15週で1単位）を基本とする。

導入科目は大教室での比較的大人数の講義が大半を占めている。学部基礎科目の受講人数は科目によって異なるが、実習科目、語学等では、同一科目を複数開講することで比較的少人数の教育を目指している。専門教育においても人文・社会科学系の科目は多人数授業が多いが、自然科学、農学系の授業・実習では比較的少人数を実現している。

授業形態は板書を伴う講義が基本だが、ビデオ教材や学内LANを通じたマルチメディア教材を表示するための機器が利用できる教室も複数ある。特に、総合英語、独語読本などの語学教育では、専用のLL教室（席数76）を使用し、大画面や各学生の端末による応答を含む授業を行っている。

本学以外での既修得単位を卒業単位として認定する制度も利用されており、平成13年度からは認定範囲を60単位に広げる。また、単位互換制度により他大学の科目を履修する学生も増加している。

#### 3. 教養教育の学習指導法

授業の内容や、履修概要、目標、授業計画、テキスト・教材、成績評価の方法、履修にあたっての留意事項などはシラバスによって事前に学生に示され、学生はあらかじめこれを参照して授業に臨む。また、教室外の学習を促進し方向づけるために、参考書等を示して図書館に配架するとともに、多くの科目ではレポートなどの宿題を課している。また、平成13年度からは履修登録単位数の上限を設定するキャップ制を導入して教室外学習の時間を保証する。

また、専門分野への学修動機、勉学目的を形成し、適切な専門分野の選択に導くため、導入科目で各専門分野の概論的科目を開講するとともに、1年次の学生

に少人数のチューター教育、研究室巡りなどを実施して、2年次（獣医学科は4年次）からの専門コースへの分属を支援している。

#### 4. 教養教育の学習環境

##### (1) 附属図書館

附属図書館は授業の予習・復習のための図書利用と同時に、自習場所としても利用されている。図書館にはコンピュータ端末を設置して、学生の図書検索やネットワーク利用に供するとともに、平成12年度より館内にシラバスコーナーを設け、シラバスに記載された参考書等を配置している。開館時間も延長し、利用の便宜を図っている。

##### (2) 情報処理センター

学生のコンピュータ利用は、インターネットの利用、コンピュータ演習授業の授業外学習、レポート作成等、多岐にわたっている。本学では情報処理関係の授業・実習が開講されているだけでなく、シラバス、教材などを学内ネットワークを通じて公開したり、レポート提出や質問等に電子メールを利用する授業も増えている。現在、3つの情報処理実習室に合計150台の学生用端末を備え、授業実習だけでなく、授業時間以外等の時間帯には学生の自由な利用にも供している。平成13年度からは、一部の実習室の利用時間を延長する。

##### (3) 附属農場

本学では、専門教育に関する授業内容や実習内容を入学後早い段階で学生に知ってもらうため、教養教育の段階で附属農場での体験実習を導入している。

##### (4) 放送大学との単位互換

本学では、放送大学との単位互換を締結し、学芸員の資格取得を目指す学生が特別聴講学生として科目を受講している。

##### (5) SCS授業

本学には平成8年度からSCSが設置され、遠隔講義の受講が可能になっている。SCSによる講義や講演は、ビデオテープや学内ネットワーク上のビデオサーバに記録し自由な時間での視聴を可能にする体制が敷かれている。

#### 5. 教養教育の成績評価法

教養教育授業科目の成績評価は、定期試験に、出席状況、中間試験やレポート等の評価を加味して実施されている。定期試験の重みづけや出席確認の方法等は担当教員に依存するが、試験方法や評価の基準は各科目のシラバスに記載されている。

## 5 変遷及び今後の方向

### 1. 教養教育の変遷

本学の学部教育は、「大綱化」に対応して平成6年度からの「新カリキュラム」で一般教育と専門教育の区分を廃止し、平成9年度の教養課程の廃止と教養課程教員の学科への分属に伴い「新々カリキュラム」を策定した。こうして4ないし6年間にわたって学部一貫教育体制の構築および教養教育科目の上級学年への配置、教養教育の全学担当化を進めてきた。

それに伴い、教養教育の企画運営の責任を担う「大学教育委員会」の設置、教養教育の維持を念頭においた人事など、教養教育の継続と質的向上のための全学的努力も行われてきた。

また、平成13年度からはキャップ制の導入、補習教育の単位化、科目内容や開講期の最適化などを主眼としたカリキュラム調整を行う。しかし、本学の教養教育には、解決が必要ないくつかの問題が存在する。

まず、学科ごとの専門教育を軸とした一貫教育の中で、教養教育科目の存在意義、重要性や必要性が学生から見えにくくなり、学生の教養教育科目への学習意欲が低下したり、教養教育科目を卒業単位取得の安易な手段としか考えない傾向もみられる。こうした傾向に対しては、平成13年度入学生からのキャップ制導入で、単位制度の実質化、および教養教育の意義や履修方法についての指導の徹底を予定している。

また、教養教育の全学化も、理系基礎科目など本学の専門教育と直結した分野では比較的順調に進んでいるものの、それ以外の分野では教養教育科目のほとんどは旧教養課程出身の教員、またはその後任者に負担が集中している。その一方で、従来教養課程が担っていた教養教育の企画と実施、改善の責任が不明確となった。

### 2. 今後の方向

大学をめぐる社会情勢、大学への社会のニーズや評価の視点は急速に変化している。社会は細分化した高度な専門知識技術の教育だけでなく、幅広い社会知識や常識と専門知識が両立した、バランスのとれた人材の育成を大学に求めてきている。また、若者の価値観、道徳意識、常識などの急速な変化を受けて、大学に「人格教育」の役割を求める動きも目立つ。

こうした情勢や社会からのニーズに対応して、本学は平成14年度を目標に大幅な学部改組と教育組織の見直し、カリキュラムの改革を進めている。詳細は現在文部科学省と折衝中であるが、特に教育組織、カリキュラム面での改革の要点は以下の通りである。

まず、既存の4学科を2学科に改組し、獣医学科以

外においては、現在の学科縦割りの教育システムから、入学後の教育の中で農畜産の基礎知識を身につけながら、自分の専門を自発的に選択していく教育システム（「アドバンス制」）に転換する。このシステムを支えるために、「基盤教育」「共通教育」「展開教育」の3カテゴリーからなるカリキュラム・履修方式を構築する。

新しい教育システムでは、農学系単科大学という本学の個性に基づいて、人間や社会への理解、コミュニケーション能力などを育成する「基盤教育」と、農畜産の広範な基礎知識を教育する「共通教育」とを通じて、「農畜産職業専門人としての教養教育」を充実強化することを目指す。

学生は低学年では基盤教育、共通教育を中心としたカリキュラムの中で幅広い教養を身につけながら自分の専門分野を自発的に選択していき、高学年では「展開教育」の職業専門人教育を中心に履修する。

また、新しいシステムでは、各教育科目の目的が、それが属する教育カテゴリーに応じて明確に規定され、学生にも指導される。

教養教育という目的からいえば、まず「基盤教育」カテゴリーに属する科目で、高校からの転換教育（含補習教育）、大学で学ぶ基盤（自然科学系基礎科目）、学生・市民・職業人として生きる基盤（人文社会系科目と保健体育）、日本語と外国語によるコミュニケーション、コンピュータとネットワーク等の教育を通じて、幅広い社会性と人間性の基盤を培う。

また、「共通教育」科目の中では、農畜産に関連した幅広い知識や問題意識を養い、農業体験を積むなかで、職業専門人としての高い人間性や倫理を育成できるように配慮していく。

教養教育の運営面では、「学部教育センター」を設置して、学部教育の運営責任を学科や講座の研究組織から分離独立させることで、学部教育全体、特に教養教育の運営責任を明確化する。

また、学部教育センターはFD室と連携し、従来の大学教育委員会に代わって教育内容の評価や全学的な見地からの教育改善を進める。

こうした改革を通じて、本学の教養教育の責任運営体制が明確化されるとともに、学部教育における教養教育の位置づけが再評価され、本学教養教育のさらなる改善と発展の基礎が構築されることが期待される。



# 6 選択肢式等設問の回答

2-2 教養教育と専門教育の基本的な関係

3
・「3」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

2-3 授業科目区分

(1) 一般教養教育の授業科目区分を記入してください。

Table with columns: 授業科目区分名, 学部名. Rows include 導入科目, 自然科学, 人文・社会科学, etc.

(2) 一般教養的内容と専門的内容を併せ持つ教育の授業科目区分を記入してください。

Table with columns: 授業科目区分名, 学部名. Rows include 導入科目, 自然科学, 人文・社会科学, etc.

(3) 専門教育の授業科目区分を記入してください。

Table with columns: 授業科目区分名, 学部名. Rows include 自然科学, 人文・社会科学, 情報処理, etc.

4-1-2 一般教養に関する教育の実施組織

(1) 1
・「4」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

(2) 3
・「2」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

・「5」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

4-1-3 学生による授業評価やファカルティ・ディベロップメントの実施状況

(1) 1
・「7」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

(2) 1
・「6」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

4-2-2 教育課程における教養教育の内容

Table with columns: 要素, 項目. Lists 1-32 items related to liberal education content.

・「3」を選択した場合、以下の欄に簡潔に記述してください。
33 動物の権利と福祉の理解の促進

Table with columns: 特に組み込んでいない, 組み込む方向で検討中である, 組み込んでおり、特に重点を置いている, 組み込んでおり、特に重点を置いている.

4-2-3 一般教養に関する教育の授業科目区分と卒業要件との関係

(1) 設問2-3で(1)に分類した授業科目区分名及び卒業要件単位数を記入してください。

Table with columns: 授業科目区分名, 学部名, 単位数. Lists various subjects and their credit values.

・学際連携専門科目
自由選択科目
※上記単位数のうち10単位数までの自由選択科目が与えられ、(1)に分類した科目を選択出来る。

(2) 設問2-3で(2)に分類した授業科目区分名及び卒業要件単位数を記入してください。

Table with columns: 授業科目区分名, 学部名, 単位数. Lists various subjects and their credit values.

表現技法 (学部基礎科目)
健康・スポーツ科学 (学部基礎科目)
情報処理 (学部基礎科目)
学際連携専門科目
自由選択科目

※上記単位数のうち10単位数までの自由選択科目が与えられ、(2)に分類した科目を選択出来る。

Table with columns: 学部名, 単位数. Lists departments and credit values.

(3) 1. 卒業要件単位数を記入してください。

Table with columns: 学部名, 単位数. Lists departments and credit values.

Table with columns: 学部名, 単位数. Lists departments and credit values.

Table with columns: 学部名, 単位数. Lists departments and credit values.

3.(1)の授業科目区分の合計単位数を記入してください。

Table with columns: 学部名, 単位数. Lists departments and credit values.

4.(2)の授業科目区分の合計単位数を記入してください。

Table with columns: 学部名, 単位数. Lists departments and credit values.

※上記(1)・(2)以外の合計単位数は下記のとおり。

Table with columns: 学部名, 単位数. Lists departments and credit values.

4-2-4 一般教養に関する教育の授業科目の履修年次

(1) 3

・「4」を選択した場合、以下の欄に履修年次を記入してください。

Table with columns: 授業科目区分名, 授業科目名. Lists subjects and their names.

専門論文作成	情報処理(学部基礎科目)
口頭発表・討論	コンピュータ・ネットワークの活用
基礎学習セミナー	コンピュータ・ネットワークの活用
医学情報演習Ⅰ	コンピュータ・ネットワークの活用
Ⅱ	コンピュータ・ネットワークの活用
Ⅲ	コンピュータ・ネットワークの活用
Ⅳ	コンピュータ・ネットワークの活用
Ⅴ	コンピュータ・ネットワークの活用
情報処理(学部基礎科目)	コンピュータ・ネットワークの活用
学際関連専門科目	コンピュータ・ネットワークの活用

\* ) は獣医学科3年次

4-2-5 一般教養に関する教育の授業科目の履修状況

A 一般教養教育の授業科目

(1) 平成12年度

授業科目区分名	最小値 (人)	平均値 (人)	最大値 (人)
導入科目	115	193.0	279
自然科学 (学部基礎科目)	85	125.0	188
人文・社会科学(学部基礎科目)	50	177.3	233
国際比較 (学部基礎科目)	98	175.0	262
表現技法 (学部基礎科目)	20	171.3	310
健康・スポーツ科学(学部基礎科目)	250	256.7	267
情報処理 (学部基礎科目)	96	96.0	96
学際関連専門科目	1	81.1	301

(2) 平成12年度

<1> 分母を履修登録した学生数とした場合>

授業科目区分名	最小値 (%)	平均値 (%)	最大値 (%)
導入科目	24.0	63.7	84.2
自然科学 (学部基礎科目)	31.1	64.2	94.0
人文・社会科学(学部基礎科目)	51.1	72.1	83.6
国際比較 (学部基礎科目)	55.1	72.1	84.0
表現技法 (学部基礎科目)	65.1	75.0	90.6

健康・スポーツ科学(学部基礎科目)	89.1	95.1	98.8
情報処理 (学部基礎科目)	15.6	42.2	56.4
学際関連専門科目	8.8	52.3	100.0

<2> 分母を成績判定を行った学生数とした場合>

授業科目区分名	最小値 (%)	平均値 (%)	最大値 (%)
導入科目	42.1	85.7	97.7
自然科学 (学部基礎科目)	48.9	71.7	91.3
人文・社会科学(学部基礎科目)	39.9	68.0	73.3
国際比較 (学部基礎科目)	16.7	43.5	63.1
表現技法 (学部基礎科目)	91.4	87.9	100.0
健康・スポーツ科学(学部基礎科目)	54.1	54.1	54.1
情報処理 (学部基礎科目)	57.4	76.7	100.0
学際関連専門科目	29.5	69.9	79.9

本学では成績判定を行った学生で単位を取得しなかった者については、報告されない。  
但し、平成13年度からは改善される予定である

B 一般教養的内容と専門的内容を併せ持つ教育の授業科目

(1) 平成12年度

授業科目区分名	最小値 (人)	平均値 (人)	最大値 (人)
導入科目	43	113.9	209
自然科学 (学部基礎科目)	46	144.3	268
人文・社会科学(学部基礎科目)	178	219.7	262
国際比較 (学部基礎科目)	30	119.5	195
表現技法 (学部基礎科目)	35	112.3	243
健康・スポーツ科学(学部基礎科目)	196	196.0	196
情報処理 (学部基礎科目)	16	35.0	55
学際関連専門科目	20	105.0	232

(2) 平成12年度

<1> 分母を履修登録した学生数とした場合>

授業科目区分名	最小値 (%)	平均値 (%)	最大値 (%)
導入科目	42.1	85.7	97.7
自然科学 (学部基礎科目)	48.9	71.7	91.3
人文・社会科学(学部基礎科目)	39.9	68.0	73.3
国際比較 (学部基礎科目)	16.7	43.5	63.1
表現技法 (学部基礎科目)	91.4	87.9	100.0
健康・スポーツ科学(学部基礎科目)	54.1	54.1	54.1
情報処理 (学部基礎科目)	57.4	76.7	100.0
学際関連専門科目	29.5	69.9	79.9

本学では成績判定を行った学生で単位を取得しなかった者については、報告されない。  
但し、平成13年度からは改善される予定である

<2> 分母を成績判定を行った学生数とした場合>

授業科目区分名	最小値 (%)	平均値 (%)	最大値 (%)
導入科目	42.1	85.7	97.7
自然科学 (学部基礎科目)	48.9	71.7	91.3
人文・社会科学(学部基礎科目)	39.9	68.0	73.3
国際比較 (学部基礎科目)	16.7	43.5	63.1
表現技法 (学部基礎科目)	91.4	87.9	100.0
健康・スポーツ科学(学部基礎科目)	54.1	54.1	54.1
情報処理 (学部基礎科目)	57.4	76.7	100.0
学際関連専門科目	29.5	69.9	79.9

本学では成績判定を行った学生で単位を取得しなかった者については、報告されない。  
但し、平成13年度からは改善される予定である

(3) 平成12年度

平均値 (単位)	最大値 (単位)
69.4	104

平成12年度卒業生による、  
一般教養教育の授業科目のみの場合は、平均値36.0  
単位、最大値61単位となる。

4-3-2 一般教養に関する教育の授業科目における履修登録者数の上限設定

人数区分	授業科目区分名	授業科目名
1. 2.0名以下		
2. 2.1名以上 ~5.0名以下		
3. 5.1名以上 ~10.0名以下		
4. 10.0名超		

本学では、少数で教育すべき授業科目は、時間割にうまく配置することで少数教育を行っている。

4-3-3 一般教養に関する教育の授業科目におけるシラバスの実施状況

(1)

1
---

・「2」を選択した場合

授業科目区分名

・「3」を選択した場合

学部名	授業科目区分名

・「4」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

--

(2)

1, 2, 3, 4, 6
---------------

・「7」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

--

(3)

1
---

(4)

1
---

・「4」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

--